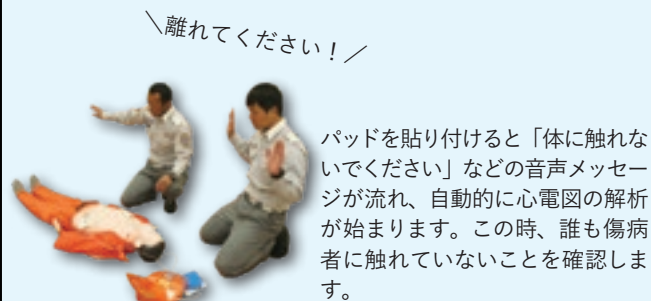
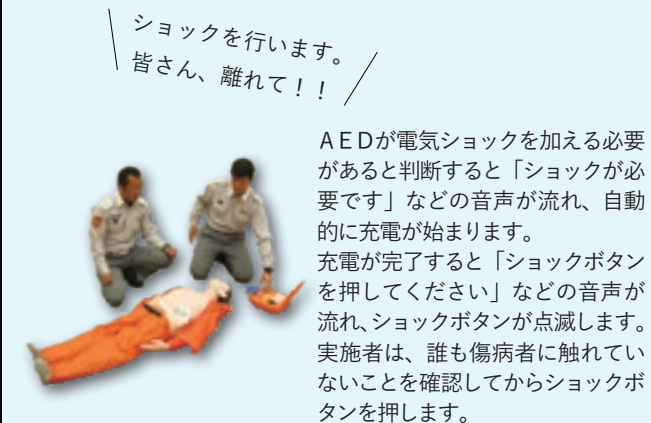


7 心電図の解析をする



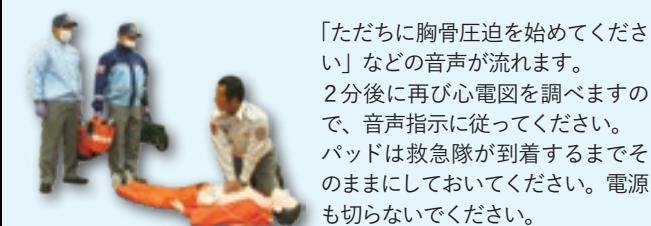
パッドを貼り付けると「体に触れないでください」などの音声メッセージが流れ、自動的に心電図の解析が始まります。この時、誰も傷病者に触れていないことを確認します。

8 除細動の指示が出たら、除細動を行う



AEDが電気ショックを加える必要があると判断すると「ショックが必要です」などの音声流れ、自動的に充電が始まります。充電が完了すると「ショックボタンを押してください」などの音声流れ、ショックボタンが点滅します。実施者は、誰も傷病者に触れていないことを確認してからショックボタンを押します。

9 除細動を行った後の対応



「ただちに胸骨圧迫を始めてください」などの音声流れます。2分後に再び心電図を調べますので、音声指示に従ってください。パッドは救急隊が到着するまでそのままにしておいてください。電源も切らないでください。

- 【ポイント】
- ・到着した救急隊に情報を伝えてください。
 - ①傷病者の倒れていた状況
 - ②実施した応急手当
 - ③AEDによる除細動を加えた回数 など

・心電図解析の後、「ショックは不要です。ただちに胸骨圧迫を開始してください」などの音声流れる場合は、電気ショックが必要のない状態です。音声に従い、胸骨圧迫から心肺蘇生を再開します。

4 人工呼吸

- 【ポイント】
- ・2回続けて試みる。
 - ・10秒以上かけない。



30回の胸骨圧迫終了後、人工呼吸により息を2回吹き込みます。

- ①気道確保
- ②気道確保したまま、額に当てた手の親指と人差し指で傷病者の鼻をつまみます。
- ③大きく口を開けて傷病者の口を覆い、空気が漏れないよう息を1秒かけて吹き込み、胸が持ち上がるのを確認します。
- ④いったん口を離し、もう1回吹き込みます。

心肺蘇生法（AED到着後の手順）

5 AEDを傷病者の横に置き電源を入れる



AEDは傷病者の肩の脇に置く使いやすい。AEDには電源ボタンを押すものや、カバーを開けると自動的に電源が入るものがあります。

6 電極パッドを貼る



衣服を取り除き、直接地肌に貼り付けます。電極パッドは、胸の右下（鎖骨の下）と胸の左下（脇の5～8cm下）の位置に貼り付けます。電極パッドに絵で表示されています。

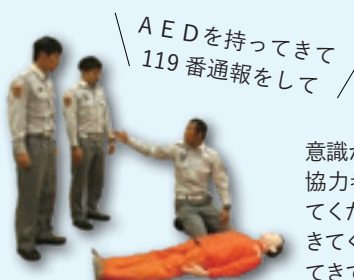
- 【ポイント】
- ・乳児にもAEDを使用できます。
 - ・成人用と小児用の2種類のパッドが入っている場合や、モードの切り替えがある種類があります。
 - ・小児用パッドは未就学児にのみ使用し、無い場合は成人用パッド（成人モード）を使用します。

心肺蘇生法（成人：15歳以上、小児：1～15歳程度）

1 反応（意識）の確認



倒れている人に近づき肩を優しく叩きながら呼びかけて意識の確認をします。



意識がなければ助けを呼びます。協力者がいれば「119番通報をしてください」「AEDがあれば持ってきてください」と依頼します。

2 呼吸の確認



普段どおりの呼吸かどうか10秒以内で確認します。目線を傷病者の胸と腹部に向け、呼吸の状態を見て確認します。しゃくりあげるような、途切れ途切れの呼吸は「死戦期呼吸」で普段どおりではありません。

3 胸骨圧迫



傷病者に普段どおりの呼吸がないと判断したら、ただちに胸骨圧迫を開始し、血液を全身に送ります。

- ◇位置…胸の左右真ん中にある胸骨下半分
- ◇深さ…成人は約5cm、小児は胸の厚さの約1/3
- ◇速さ…1分間100～120回
- ◇回数…30回

- 【ポイント】
- ・圧迫と圧迫の間は、胸がしっかり戻るまで十分に力を抜く。
 - ・キーワードは、「強く、速く、絶え間なく」

あなたの勇気が「命」を救う 始めよう救命のリレー つなごう命のバトン

さつきまで元気にしていたのに、突然、心臓や呼吸が止まってしまった…。こんな人の命を救うために、そばに居合わせた人ができる応急手当のことを「救命処置」といいます。住民に

より心肺蘇生が行われたほうが、行われなかったときより生存率が高く、住民がAED（自動対外式除細動器）を使用し電気ショックを行つたほうが、生存率や社会復帰率が高いことがわかって

います。ここでは、心肺蘇生法とAEDの使用方法を簡単に説明します。少しの知識と勇気を持って、AEDを使用し、「命」をつなぐリレーに参加してください。

学校はもちろん駅や空港、スーパーや公共施設など、いろいろな生活の中で、どこにAEDがあるか確認してみましょう。

